

会派自民党要望項目一覧

平成29年度11月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>1 除雪について</p> <p>本年1月、2月の記録的な大雪の教訓を踏まえ、国・市町村・除雪業者と綿密に連携をとり除雪に当たること。特に、新たに設定した「重点区間」や見直した「車道の除雪基準」に基づいて、除雪が効率的に行われるよう最大限に取組むこと。</p>	<p>1月、2月の豪雪時の教訓を踏まえ、国、県及び市町村をはじめとする各関係機関による「冬期道路交通確保対策会議」を10月16日に開催し対応策をとりまとめ、異常降雪時の行動計画に基づく雪害対応訓練を実施しているところである。</p> <p>また、県においては除雪計画、除雪体制の見直しを行い、国、市町村をはじめとした関係機関による除雪対策協議会を開催するとともに、新たに設定した「重点除雪区間」や見直した「車道の除雪基準」については、地方機関毎に開催する除雪運転技術講習会、除雪受注業者への説明会において説明し、除雪作業が効率的に行われるよう取り組んでいる。今後も引き続き、降雪期における除雪が効率的に行われるよう関係機関と連携を図っていく。</p>
<p>2 台風18号及び21号による県内の被害状況と対応について</p> <p>台風18号は農林関係で10.3億円、公共土木被害で16億円など、県内に甚大な被害をもたらした。台風18号及び21号による県内の被害状況を的確に把握するとともに、農林水産関係、公共土木関係、民間等の被害状況に応じ、国の災害公共事業の対象にならない場合は、単県費での対応を検討するなど、迅速かつ丁寧な対応を講じること。</p>	<p>被害が発生しないように事前の予防対策を全庁で市町村等と連携して行うとともに、被害を最小限にとどめるため、大雨警報等発表等の時点から被害の全容がわかるまで、市町村、全庁等からの被害報告等によって、被害状況等の把握、応急・復旧対策の実施に努め、被害状況については概ね調査を完了し、緊急対応が必要な箇所については、応急工事等により対応したところである。今後、国の災害査定を受け、早期の復旧及び機能回復を図っていくとともに、11月補正による対応を検討する。災害復旧事業以外にも、災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業（海岸・港湾）、災害関連緊急治山事業（治山）等、国の災害関係補助事業で対応を進めている。</p> <p>また、国の災害関係補助事業の対象にならない箇所等については、単県災害復旧事業、道路維持修繕事業（道路）、斜面崩壊復旧事業（治山）等で、きめ細かな対応を進めていくとともに、小規模な農地・農業用施設や森林作業道災害については、11月補正により対応を検討する。</p> <p>【11月補正：国災害公共事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕地災害復旧事業 125,220千円 ・県営林道施設災害復旧事業 68,450千円 ・団体営林道施設災害復旧事業 149,000千円 ・建設災害復旧費 670,000千円 ・港湾災害復旧費 270,000千円 <p>【11月補正：単県事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり守る農林基盤交付金 48,000千円 ・森林作業路網災害復旧対策事業 22,000千円

要望項目	左に対する対応方針等
<p>3 台湾との国際交流について</p> <p>(1) 来年、台中市で開催される国際花博覧会に万全の体制と準備で取り組むこと。</p> <p>(2) 台中市との交流協定の提携を検討すること。</p> <p>(3) 台湾とのチャーター便の運行に積極的に取り組むこと。</p>	<p>国際花博覧会への参加については、作品出展のほか、県産品や観光のPRなども含め、平成30年度当初予算編成の中で検討する。</p> <p>台中市とは、10月23日に鳥取県観光交流局長と台中市観光旅遊局長との間で観光交流協定の締結を行った。これまで20年来の交流を続けてきており、チャーター便の実現や自転車交流など両地域の観光資源を生かした観光交流の促進に取り組みながら、姉妹提携も今後視野に入れて検討していきたい。</p> <p>台湾は、本県にとって定期便をもつ韓国、香港に次いで来県者数の多い重要市場であり、今年度も11月に米子空港と山口空港を結ぶインバウンドプログラムチャーターが実現している。</p> <p>昨年来の台湾へのエアポートセールスにより、台湾航空会社との関係も進展しており、季節毎の連続チャーター便の運航を積極的に働きかけていく。</p> <p>【11月補正】 国際航空便就航促進事業 5,158千円</p>
<p>4 鳥取砂丘コナン空港の整備について</p> <p>来年7月のグランドオープンに向けて整備中の鳥取砂丘コナン空港が、県東部の空の玄関としてふさわしい施設となるよう、整備内容を点検し、利活用が更に促進されるよう検討すること。</p>	<p>現在、鳥取砂丘コナン空港では、その強みである「名探偵コナンの装飾」や「市街地・観光地との近接性」を最大限活かすため、ターミナルビルの一体化や、近接する鳥取港との連携強化によるツインポート化を進めており、空港利用者のおもてなし・利便性の向上及び交流人口拡大と地域活性化に向けた「空の駅」化プロジェクトを推進してきているところである。</p> <p>来年7月のグランドオープンに向けたターミナルビル一体化では、空港を航空機利用者のみならず、観光客や地元住民等幅広く利用されることを目指し、情報・観光・賑わいの拠点となるよう、空港利用者や関係者のニーズに即した施設整備を進めていく。</p>
<p>5 宮城全共の成果を更に高める鳥取和牛ブランド戦略について</p> <p>第11回全国和牛能力共進会宮城大会において、「白鵬85-3」や「百合白清2」などの系統和牛の活躍と官民一体となった取り組みにより大きな成果があった。これを機に、鳥取和牛をトップブランドに高めるため、食肉卸売市場、食肉卸売業者や消費者に対し積極的なPRを行うこと。</p>	<p>第11回全国和牛能力共進会宮城大会での「肉質日本一」の成果を消費者にPRするため、首都圏百貨店での鳥取和牛の販促、レストランでの「鳥取和牛フェア」の県内旅館宿泊者への「鳥取和牛」のプレゼントを行うキャンペーン、羽田空港や県内主要駅・空港でのPRなどを実施している。</p> <p>食肉市場、卸売業者については、首都圏での「鳥取和牛」販路開拓の充実強化を図っているところである。引き続き、更なるPR等について、平成30年度当初予算での対応を検討する。</p>